

国語科における平成28年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・どの領域でも理解が深まるように、学習方法や掲示物の工夫をしてきた。詩や俳句に関心をもつ児童は増えてきたが、昨年度より関心意欲の正答率が伸びなかった。発達段階に合った指導の工夫が必要である。
- ・場面の様子や登場人物について叙述を基に、想像しながら読み取らせることに力を入れて指導した結果、物語に対する関心が高まり、物語の内容も理解できるようになってきた。
- ・学年によって、理解が十分でない領域があることがはっきりした。苦手と思われる領域などに関わる単元や学習内容を確認し、児童が関心をもって進んで取り組めるように指導を工夫するとともに、漢字の読み書きや言葉の学習など、基礎的な内容の復習に取り組ませていく。

国語における調査結果の分析

領域別結果の分析	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
	・学年が上がるにつれて、目標値を上回っている。さらに理由や事例を入れながら自分の考えを明確にして話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりできるように指導を続けていく必要がある。	・4,5年生は目標値を下回った。段落構成を考えたり、目的に応じて理由や事例を挙げて書いたりすることに課題がある。また、既習漢字を文章を書くときに進んで使うように指導する必要がある。	・読むことについては、どの学年も目標値を上回り、特に物語文が得意な傾向がある。説明文も得意になるように、目的に応じて内容や要旨を捉えながら読む能力を身に付けさせたい。また読書を通して考えを深めていくような態度を育てる。	・国語の特質では、6年生は目標値を上回ったが、4年生が目標値と同程度、5年生が下回っていた。詩や短歌、俳句などに親しませ、指示語や接続語、修飾語や敬語などに対する理解を深めていく必要がある。	
観点別結果の分析	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	・6年生は目標値を上回ったが、学年が下になるにつれ目標値より低かった。日常生活でも言葉を意識させ、学習意欲を向上させていくように指導を工夫することが大切である。	・学年が上がると、目標値を上回っている。目的に応じて、理由を入れながら的確に話したり自分の考えと比べながら聞いたりする力を身に付けさせ、必要なことはメモを取って聞くことを指導する。	・4,5年生は目標値を下回り、6年生は上回った。目的や意図に応じて、自分の考えが明確になるように段落構成を考えたり、理由や事例を挙げて文章を書いたりする活動を取り入れる。	・どの学年も目標値を上回っている。さらに6年生は、説明文の内容を読み取る力を付けさせたい。また漢字の読みが正確にできるように読書や音読指導にも力を入れる。	・昨年度より正答率が十分ではなかった。言語に関する知識理解を深めるには、国語全体の関心意欲を向上させる必要がある。国語辞典や漢字辞典を利用して様々な言葉に触れる機会を増やし、漢字学習では筆順や送り仮名、部首に注意して練習させていく。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 国語に対する関心・意欲を高め、言葉に対する感覚や語彙を豊かにしていく。
→日常生活や授業を通して、言語活動を工夫し、言葉に対する意識を高めていく。
- 2 自分の考えが伝わるように、段落構成を考えたり、表現を工夫したりしながら書かせる。
→文章全体の構成の効果を考えて書くことや、表現の効果を確かめることを指導する。
- 3 文章の内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読む力を身に付けさせる。
→文章構成や重要語句を押さえながら読んだり、文章を読んで考えたことを発表し合ったりさせる。

国語科の授業改善策

- ・国語に対する関心・意欲を高め、言葉に対する感覚や語彙を豊かにするために
 - 全・・・年間を通して俳句や短歌、詩に触れさせ、楽しんで音読したり自分で俳句や詩などを作ったりさせる。スピーチ等様々な発表場面を設け、場に応じた適切な言葉遣いで話す習慣を付けさせる。
 - 低、中・図書ボランティアの活用し、本の読み聞かせや本の紹介を通して、読書の楽しさを味わわせる。関心をもったいろいろな言葉の意味や使い方を、国語辞典や漢字辞典を利用して調べさせる。
 - 高・・・矢東タイムを活用し、日常的に本に親しませる。俳句や短歌・慣用句・故事成語・古典等に関心もてるよう、視写したり感想を交流したりさせる。また様々な場面で辞書を活用させる。
- ・自分の考えが伝わるように、段落構成を考えたり、表現を工夫したりしながら書かせるために
 - 低・・・書くことによって自分の思いを伝えられる楽しさを感じられるように、いろいろな機会を捉えて書かせる。経験したことや想像したことの順序をメモして整理し、簡単な構成を考えさせる。
 - 中・・・書こうとする中心が明確になるよう文章構成を考え、目的や理由・事例を挙げて書かせる。その際事例の場合は、「例えば～」「例をあげると～」等、表現の仕方を指導していく。また自分の考えは明確に書けているか検討する等、文章の間違いを正したりよりよい表現に直したりさせていく。
 - 高・・・選択した文章の種類に応じて、自分の考えが明確に伝わるように、文章全体の構成を考えながら書かせる。具体的に効果的な表現方法を指導し、文章の中で進んで使わせていく。
- ・文章の内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読む力を身に付けさせるために
 - 低・・・楽しんで読書しようとする態度を育て、事柄の順序や場面の様子に気を付けながら読ませる。
 - 中・・・いろいろな種類の本に関心をもたせる。段落相互の関係を考え、中心となる言葉や文に注目したり、小見出しを付けたりしながら読ませ、自分の考えや感想などをまとめて交流させる。
 - 高・・・目的に応じて、本を選んで読ませる。事実、理由や根拠、感想や意見などの関係を押さえ、自分の知識や経験から明確にした考えを発表し合い、自分の考えを広げながら読ませる。